テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　サブクエスト

ザナラーン編

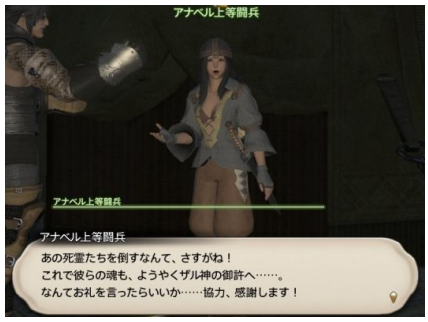
南ザナラーン

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

苦しむ亡者に聖水を

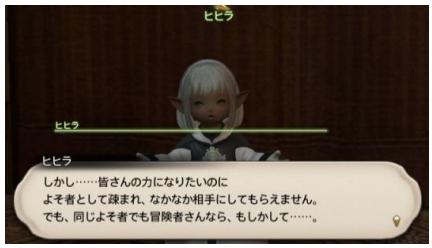
アナベル上等闘兵 ： 冒険者さん、折り入って頼みがあります。最近、南の遺跡に出没している
古代ベラフディア時代の死霊たちを討伐してほしいの。
生前、奴らは戦士だったと思われます。ずいぶん腕が立つ猛者ばかりで、手ごわいのです。
恥ずかしい話だけど、私じゃ歯が立たないの……。
この「ナルザルの聖水」を使うと、死霊を弱らせることができるといいます。
お願い、彷徨える亡骸をザル神の御許へ導いてあげて！

アナベル上等兵 ： あの死霊たちを倒すなんて、さすがね！　これで彼らの魂も、ようやくザル神の御許へ……。
なんてお礼を言ったらいいか……協力、感謝します！



慈愛の小公女

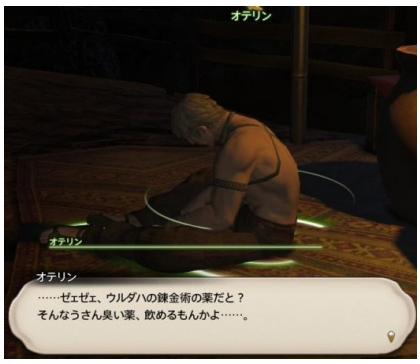
ヒヒラ ： ここでは多くの方が、病を得ても薬を手に入れられません。私はただ、この方たちを助けたい一心で、
このリトルアラミゴへやってきました。
しかし……皆さんの力になりたいのによそ者として疎まれ、なかなか相手にしてもらえません。
でも、同じよそ者でも冒険者さんなら、もしかして……。
どうか私に代わって、薬を配ってきていただけませんか？　ウルダハの錬金術師ギルドで作られた、とても良い薬なんです。



ベロルド ： ううう……痛てエ、痛てエよう……。楽になりてエ……ううう……。
ううう……薬だって？　ど、どうせウルダハで作られたやつだろ。……そんなもん飲めるかよ……痛てて。

オテリン ： ゼェゼェ、胸が……掻きむしられるみたいだ……。苦しい……苦しい……。
……ゼェゼェ、ウルダハの錬金術の薬だと？　そんなうさん臭い薬、飲めるもんかよ……。

アルケヴィウス ： よそ者が、何の用だ……？　アラミゴ人が死ぬ姿を見て……笑いに来たか。
……よそ者の施しなど受けん。こんなもの飲むくらいなら、死んだほうがマシだ……。

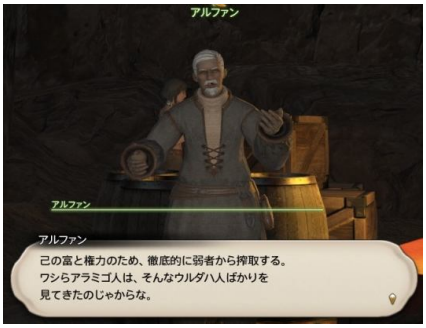


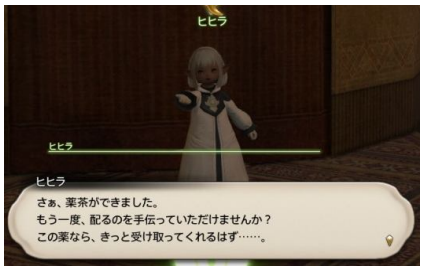
ヒヒラ ： ……ああ、やはり駄目でしたか。でも、誠意を尽くし続ければ、いつか彼らと通じあえるはず。
その日が来るまで、私はけっして諦めません！

サボテンダーは希望の雫

ヒヒラ ： 考えてみたのですが……　みなさんがこの薬を受け取ってくださらないのは、この薬自体が原因なのではないでしょうか……。
私がよそ者ということもあるでしょうが、この地のみなさんが憎むウルダハで作られた薬ということも
関係しているような気がするのです。
……そうだ、何か良いお知恵がないか、「アルファン」さんに相談してきてくださいませんか？
彼は、私の薬をただひとり飲んでくれた人なのです。

アルファン ： ワシがアルファンじゃが……。冒険者が、リトルアラミゴに何の用かね。……ヒヒラがそんなことを？
あの娘の目には嘘がない。澄んだいい目をしておる。ウルダハにも、あのように心の優しい者がおるのに、
この地の者にそれを感じることは難しいじゃろう……。
己の富と権力のため、徹底的に弱者から搾取する。ワシらアラミゴ人は、そんなウルダハ人ばかりを見てきたのじゃからな。
……おっと、薬の話じゃったな。熱冷ましなら「サボテンの実」を煎じるのがよかろうて。
アラミゴには、さまざまな物を煎じて薬茶を作る文化がある。あれなら皆も納得して受け取ってくれるじゃろう。





ヒヒラ ： 「サボテンの実」を煎じることで熱冷ましの薬茶になるなんて知りませんでした。アルファンさんに感謝しなくてはいけませんね。
さぁ、薬茶ができました。もう一度、配るのを手伝っていただけませんか？　この薬なら、きっと受け取ってくれるはず……。

ベロルド ： んだよ……しつけぇぞ……　ウルダハの薬なんざ、飲めっかよ……
これは……アラミゴ風の薬茶じゃねぇか？　……あの子がこれを？　礼を言わなくちゃな……。

オテリン ： ……さっきも言ったろ？　錬金術の薬だのなんだの、うさん臭いんだよ。
なんでウルダハ人がこの薬茶を……。……あの子に言っておいてくれないか。ありがとうってな。

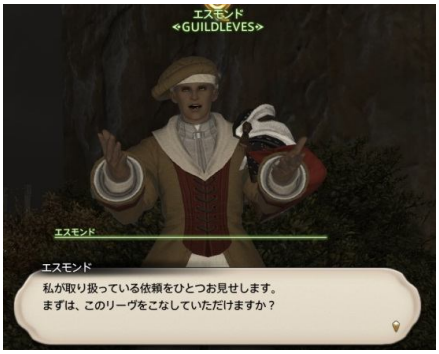
アルケヴィウス ： よそ者に何を言われたところでウルダハ人の力なぞ、借りるつもりはない。
…よそ者が味なまねを。あの娘に知恵を授けたのはアルファン殿であろう？　彼に敬意を払って、薬茶は受け取ってやる。

ヒヒラ ： みなさん、受け取ってくださったんですね！　良かった！　本当に良かったです！

ギルドリーヴ開放「リトルアラミゴ」

エスモンド ： 仕事をお探しですか？　私はエスモンド。冒険者ギルドの一員です。
こちらでは、魔物討伐や物資の調達など「リトルアラミゴ」周辺から寄せられた依頼をご紹介しております。
本格的なご紹介の前に、一度あなたの実力を確認させてください。国境近くのため、危険な依頼も多いのです。
私が取り扱っている依頼をひとつお見せします。まずは、このリーヴをこなしていただけますか？
ありがとうございます。「妖異全集」の頁を全て集めると、封印されていた魔物が出現します。お気をつけて。

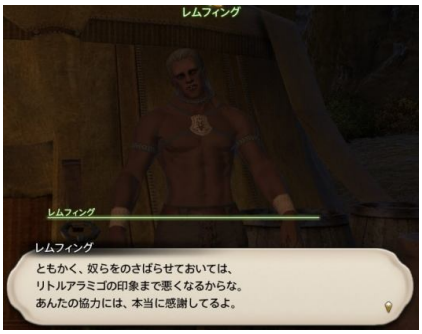
エスモンド ： 依頼したリーヴを達成していただけたようですね。では、報酬をお受け取りください。
ご苦労様でした。あなたの実力なら、大丈夫ですね。どの仕事も安心してお任せできそうです。



対決！骸旅団

レムフィング ： よそ者に頼むのは嫌だが、俺には手が出せないからな……。「骸旅団」という名を聞いたことはないか？
この辺りを拠点としている夜盗なんだがね。
殺人に強盗、薬物の密売……。この辺りで発生する犯罪の陰には、大抵奴らがいる。
その「骸旅団」がリトルアラミゴの北東に集まってるという情報が入ったんだ。
あんたは冒険者だろ？　奴らを排除してくれないか。

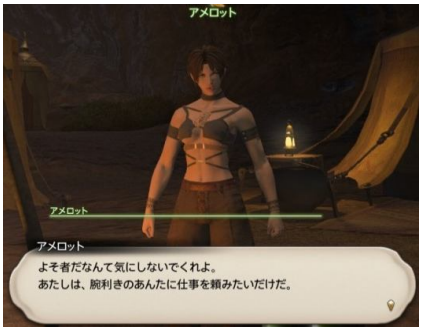
レムフィング ： 「骸旅団」の一隊を排除してくれたようだな。戦う間に、気づいたかもしれないが……奴らは全員、アラミゴ人なんだ。
まったく、恥さらしな連中だよ。そもそも……と、これはあんたに関係のない話か。
ともかく、奴らをのさばらせておいては、リトルアラミゴの印象まで悪くなるからな。
あんたの協力には、本当に感謝してるよ。



毒をもって毒を制す

アメロット ： 解毒剤作りを頼まれたんだが、材料がひとつ足りないんだ。必要なのは「ベイストの毒液」さ。
こいつは「ロックスキン・ベイスト」っていう凶暴な魔物からしか取れないんだ。
やっかいなのは、奴の皮膚が岩のように硬いことさ。でも、この「アントリオン酸」を使えば、自慢の皮膚を溶かすことができる。
なんとか、ロックスキン・ベイストを倒して、「ベイストの毒液」を手に入れてきてくれ。
よそ者だなんて気にしないでくれよ。あたしは、腕利きのあんたに仕事を頼みたいだけだ。

アメロット ： よう、冒険者さん。頼んでたものは、手に入ったかい？
ありがたい！　これで「骸旅団」と戦える！
……あれ、説明してなかったか？　「骸旅団」の奴らは、殺しに毒を使うことがあるんだ。
だから、解毒剤がなきゃ危なくって戦えないのさ。
あんたのおかげで、解毒剤の材料はそろった。……あとは、あたしの腕と勘次第だな。



死を運ぶ魔物

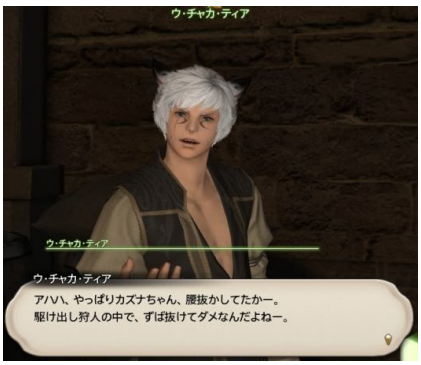
アメロット ： 冒険者さん、もう少しだけ頼まれてくれないか？　熱病の原因になるポッターワスプ・スウォームって魔物を
退治してきてほしいんだよ。
でも、ポッターワスプ・スウォームだけを駆除してもダメだ。その変異種で、熱病の毒気を媒介する別の魔物……
ボーリング・フレッシュフライもどうにかしないと。
そこで役立つのが「サボテン酒」だ。一見、ただの魔物の死骸に見えても、こいつをぶっかけると
ボーリング・フレッシュフライが姿を現すことがある。
奴らは小さな虫だが、油断は禁物だ。熱病が広まれば、大勢の人々が倒れることになる。
目を皿みたいにして、根こそぎ退治してきてくれ！

アメロット ： 魔物を倒してきてくれたみたいだな。それで、ええと……あれだ……。
あたしら、リトルアラミゴの者は……その、頭悪いし。礼を言うことも言われることも、あんまりないからさ。
どう言ったらいいのか、わからないけど……。
本当にありがとよ。あんたみたいな冒険者に会えてよかったよ。……ああクソっ、恥っずかしいなコレ！！

チャカの気がかり

ウ・チャカ・ティア ： フンフン、そこそこできる奴の匂いがするね。君さ、ちょっとカズナちゃんの手伝いしてよー。
カズナちゃんって、まだ駆け出しの狩人なんだけどさ、南西に「アングラー」狩りに行かせたら、まだ帰ってこないんだよねー。
俺が助けたら、カズナちゃん気にしちゃうからさぁ。冒険者ちゃんさぁ、助けに行ってくれないかなー。

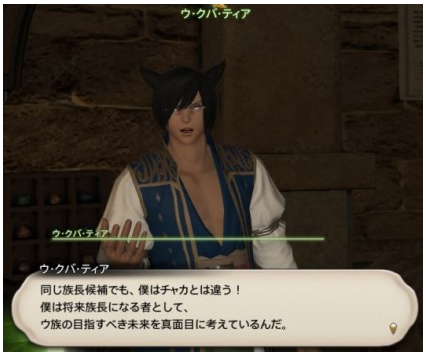
ウ・カズナ ： は、はひぃ！　すみませんすみません！　次期族長とも噂される、チャカ様に頂いた修行なのに、
私ったらもう、本当にダメダメで……！
うぅぅ、ウ族の狩人として情けないです……！　もっとがんばって修行してきます～っ！！



ウ・チャカ・ティア ： アハハ、やっぱりカズナちゃん、腰抜かしてたかー。駆け出し狩人の中で、ずば抜けてダメなんだよねー。
ま、俺も駆け出しの頃はあんなんだったよ、アハハ！　駆け出しちゃんたちは、修行あるのみってことだなー。

クバの見識

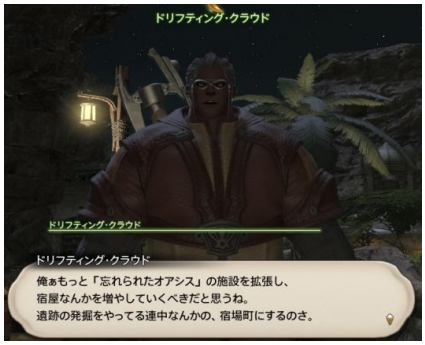
ウ・クバ・ティア ： ……おい、族長ならともかく、チャカみたいなアホ脳天気の相手をすると、お前の頭も曇ってしまうぞ。
同じ族長候補でも、僕はチャカとは違う！　僕は将来族長になる者として、ウ族の目指すべき未来を真面目に考えているんだ。
そうだお前、オアシスにいる外部の者たちから、現在のオアシスについて、意見を聞いてきてくれないか。
今後の参考のために、様々な見識を知っておきたいんだ。

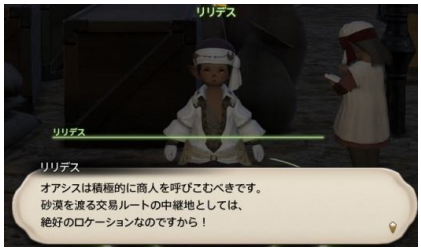


ドリフティング・クラウド ： 俺ぁもっと「忘れられたオアシス」の施設を拡張し、宿屋なんかを増やしていくべきだと思うね。
遺跡の発掘をやってる連中なんかの、宿場町にするのさ。

シディムンド ： ここはアマルジャ族に対する防御が足りぬな。ザンラクに展開するアマルジャ族をけん制するためにも、
我ら不滅隊に土地を提供し、駐屯地とすべきだ。

リリデス ： オアシスは積極的に商人を呼びこむべきです。砂漠を渡る交易ルートの中継地としては、
絶好のロケーションなのですから！





ウ・クバ・ティア ： なるほど……礼を言おう、冒険者。族長候補の僕が聞きにまわると、なにかと本音が聞けないからな。
ウ族は外部の者に閉鎖的な態度を取り続けている。しかし、いずれは環境の変化に対応しなければならない。
ウ族の繁栄のため、様々な策を用意しておくべきだな！

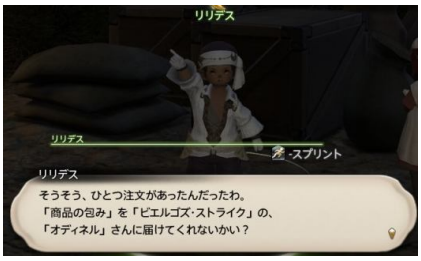
クバの鍛錬

ウ・クバ・ティア ： ウ族の族長になる方法……それは、現族長であるオド様を倒すことだ。
だがその前に、僕と同じ族長候補であるティアを倒し、族長へ挑戦する権利を得ねばならない……。
あらゆる手段を使ってでも、上に伸しあがらなければ。
まずは弓術の腕前を磨くため、矢を用意したい。ラセット・ヤーゾンから、ヤーゾンの爪を、
6つほど取ってきてほしい。矢尻の素材になるからな。

ウ・クバ・ティア ： 弓術の腕前を磨くためだ。ヤーゾンの爪を6つ、取ってきてくれ。
冒険者よ、感謝する。僕が晴れて族長になったときには、生まれ変わったオアシスに足を運んでくれたまえ！

オアシスの商人

リリデス ： 本当は「忘れられたオアシス」の中に、お店を出したかったんだけどねぇ。ウ族の族長さんに、出店を断られたのよ。
ウ族の人は、食料はほとんど自分で採っちゃうからさ。うちのお客は、オアシスの「不滅隊」か、採掘師さん。
あとは、あんたみたいな冒険者くらいなもんさね。
そうそう、ひとつ注文があったんだったわ。「商品の包み」を「ビエルゴズ・ストライク」の、
「オディネル」さんに届けてくれないかい？



オディネル ： ああ、ごくろうさん。ミノタウロスマルムのリリデスさんに頼まれたんだろ？
ありがとさん。こんな場所だからね、リリデスさんには助かってるよ。
あの人も大変だよ。オアシスの中に店を出せれば、荷運び人も雇えるだろうが。……まぁ、今の族長が健在の間は難しいだろうなぁ。

砂と汗の掘削作業

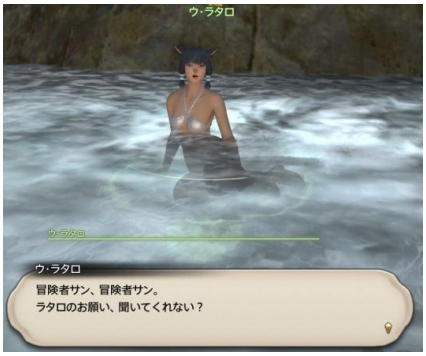
ムムゴイ ： ここでは、アマジナ鉱山社の採掘技術を使って、アラグ文明の遺跡を発掘しているんだ。
でも、こんな砂まみれの環境だと、いくら手入れをしても、すぐに機材に砂が入っちゃう。
砂山にスモークボムが潜り込むこともあって、危険なんだ。
冒険者がここを訪れるのは珍しいからさ、いい機会だ。「砂の吹き溜まり」を、3ヶ所ほど除去してくれないか？

ムムゴイ ： やはりスモークボムがいたか……！　ものはついでだ、もうひと働きしていかないかい？
スモークボムが集まるのは、機材の熱のせいなんだ。ここで使っているアマジナ鉱山社の機材は、
性能は素晴らしいが、なにせ発熱量がすごくてね。
奴らが来るたびに機材を止めてちゃ、仕事にならない。その辺りの「スモークボム」を4匹退治してきてくれないかな。

ムムゴイ ： やっぱり人手があると、仕事がはかどるよ！　おかげで安心して発掘に専念できるしね、いろいろと、ありがとうよ！

怪しい目線

ウ・ラタロ ： 冒険者サン、冒険者サン。ラタロのお願い、聞いてくれない？
私たちね、狩りの後にここで水浴びをするんだけど、なんだか妙な視線を感じるの……。
覗き見してる不埒な男がいたら「怒って」ほしいのっ！



仕事中の男 ： お、俺ぁ、ただ暑いから休んでるだけだ。砂漠の中での行商は、暑いからな……。よ、横目で見てても熱いけどな……。
うわっ！　すみません、仕事に戻りますぅ！！

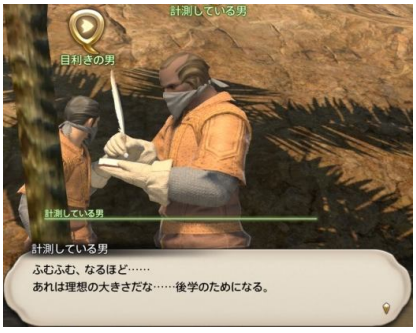
安らぎを求める男 ： ……見てのとおり、ただの休憩中だ。あー、マジ、緑の中は安らぐわー。
あー、マジ、あのボディは高まるわー。ハッ！？　ぐぬぬ……覚えてろ！

意思の弱い男 ： けしからんっ……！　なんという眩しさ！　脚が動かん……。あのミコッテ、まさか……剣術士か！？
ふ、不覚……私の敵視を奪うとは……！　もっと鋼の意志を持つよう精進せねば！

計測している男 ： ふむふむ、なるほど……あれは理想の大きさだな……後学のためになる。
わわっ！　やっ！　あのっ！　いっ、岩の大きさを測ってただけですけどっ！？

目利きの男 ： いいか……俺が見るに……あのボディは……ベリー……ラ……。
ご、ごめんなさいいぃ！！　あまりの楽園に、オアシスに……っ！　つ、つい魔が差してしまいまして……！

集中している男 ： うるさいな……！　精神統一できないだろう……！
ひぃっ！　ご、ごめんなさい、もう覗きませんー！！

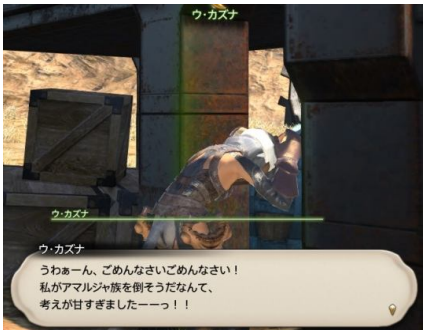


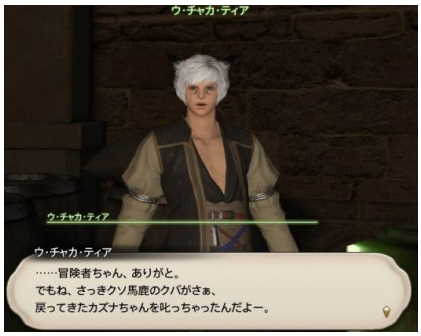
ウ・ラタロ ： ウフフ……覗いてた人たちはいなくなったみたい！　冒険者サン、ラタロ、う・れ・し・い！
ありがとうね！

チャカの気心

ウ・チャカ・ティア ： あー、さっきの冒険者ちゃんー。乗りかかったチョコボだと思ってさぁ、ちょっとさー、もうひとつ頼むよー。
駆け出し狩人のカズナちゃんが、サゴリー砂漠の東に、アマルジャ族を倒しにいってさぁ。
でも、また帰ってこないんだよねー、アハハ。
だからさぁ、お手本にアマルジャ族を3体倒してやってくれないかなー。ついでに、カズナちゃんに「活を入れて」やってよー。

ウ・カズナ ： うわぁーん、ごめんなさいごめんなさい！　私がアマルジャ族を倒そうだなんて、考えが甘すぎましたーーっ！！
ア、アマルジャ族を倒すなんて、すごい！　私もがんばらなきゃ！　活入りましたー！
大丈夫です、ひとりで帰れますーーーーーっ！！

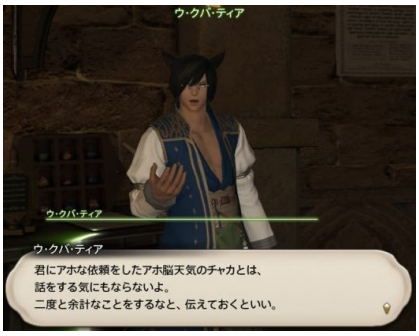


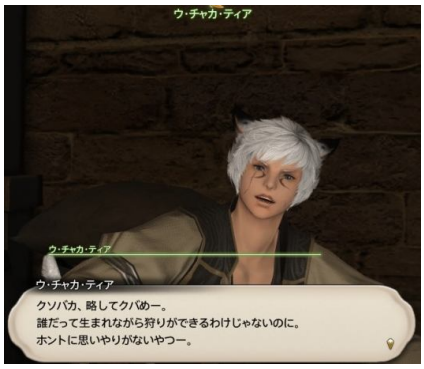


ウ・チャカ・ティア ： ……冒険者ちゃん、ありがと。でもね、さっきクソ馬鹿のクバがさぁ、戻ってきたカズナちゃんを叱っちゃったんだよー。
まったく、クソ馬鹿のクバめー。新米を叱って、いじめるのはやめろって言ってるのに！

オアシスの明日

ウ・クバ・ティア ： 君か、冒険者。まさか君がカズナの修行を手伝っていたとはな。……まったく、カズナはウ族の恥さらしだ！
己が使命を忘れ、よそ者に醜態を晒すとは情けない。カズナには、ひとりで反省させているよ。
君にアホな依頼をしたアホ脳天気のチャカとは、話をする気にもならないよ。
二度と余計なことをするなと、伝えておくといい。

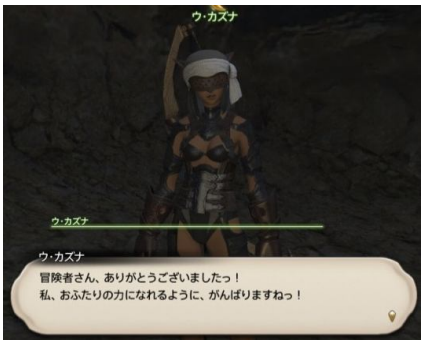


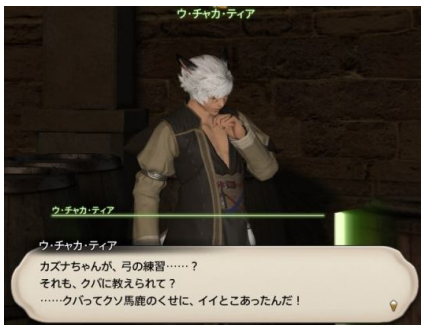


ウ・チャカ・ティア ： クソバカ、略してクバめー。誰だって生まれながら狩りができるわけじゃないのに。ホントに思いやりがないやつー。
ねー冒険者ちゃん、頼むよー。カズナちゃんを探して、様子を見てきてほしいんだ。
俺が出てくと、クソバカと喧嘩になっちゃうからさー。

ウ・カズナ ： はわっ！　ぼ、冒険者さん！！　し、心配してくださってありがとうございます。
私のことなら全然気にしないでくださ……ああっ！
そうだ、「デューン・アングラー」を3匹捕まえたいんです！　弱ったところを「大きな麻袋」でパクっと！
どうしても必要なんです、お願いしてもいいですかっ！

ウ・カズナ ： その「大きな麻袋」に、デューン・アングラーを3匹捕まえてほしいんです！　どうか、お願いしますっ！
……私、武器を弓に変えたんです。だから、この弱ったデューン・アングラーを相手に、弓術の練習をしようと思って……！
クバ様が、私には弓術のほうが向いてるって言って、ヤーゾンの爪でできた、矢をくださったんです。
それに、この秘密の特訓場所と弓の構え方も教わりました。
……クバ様もチャカ様も、性格は違うけれど、私たち、ウ族の者たちをとても大事にしてくれます。
どちらが族長になっても、ウ族の未来は安泰です！
冒険者さん、ありがとうございましたっ！　私、おふたりのカになれるように、がんばりますねっ！



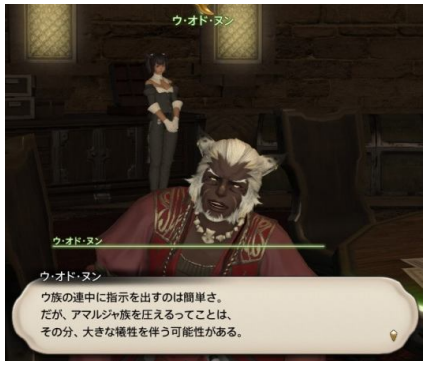


ウ・チャカ・ティア ： カズナちゃんが、弓の練習……？　それも、クバに教えられて？
……クバってクソ馬鹿のくせに、イイとこあったんだ！
まぁ、でも次の族長になるのは俺だからねー。イイ奴だろうがワルイ奴だろうが、ぜってーにぶっとばしてやるかんね、アハハ！

自由の民

※砂の家クエスト「黄砂の光」からの連続クエスト

ウ・オド・ヌン ： ウ族の連中に指示を出すのは簡単さ。だが、アマルジャ族を圧えるってことは、その分、大きな犠牲を伴う可能性がある。
それに、俺たちウ族は自由の民だ。協力するにしても、部外者の指図を好む奴はいねぇよ。
てめぇを気に入っているって理由だけじゃ、いくら俺でも、ウ族全体に死を覚悟しろとは言えねぇ。
……まぁ、下のモンたちに、直接話を聞いてみりゃいいさ。



勝ち気そうな狩人 ： アタシらが戦うのは、アタシらが戦いたいとき。ダレかが戦いたいのなら、そのダレかが戦えばいい。
……アナタの話、筋が通ってないのよ。

甘い香りの狩人 ： う～ん、それって何が楽しいのかなー。美味しいもの倒してこいとかじゃないと、ソソられないなー。じゃね、ばいば～い。

厳しい顔つきの狩人 ： あんたらの指図を受けて、何かウチラにいいことあんの？　族長の命令じゃないなら、ゴメンだね。

気だるそうな狩人 ： あんたが強いってのは、聞いてる。……けど、あんたを助ける理由はない。そんじゃね……っと。

ウ・オド・ヌン ： ……おう、悪いが協力の件は、後回しにしてくれ。てめぇが聞きまわってる間に、ひとつ緊急案件が入っちまった。

悲しみのゾンビー

ハブ ： ううう……寂しい、寂しすぎて死にたいデス……。こんな時は、昔の記憶を思い出に浸るのデス……。
サボテンダーさんたちとの、楽しい思い出を……ぐすッ。
ああ、黒衣森で「デスゲイズ」にちょっかいだして、そのまま連れ去られてしまったサボテン1号サン……。
彼は元気にしているでショウカ……。
そうダ、よかったら捜しに行ってもらえませんカ？　人間にもゾンビーにも友達がいない私にとって、
彼らは貴重な心の支えだったのデス……。

サボテン1号 ： ……！

ハブ ： サボテン1号さんと再会できマシタ！　ああ、私……嬉しすぎて死にそうデス！！
このまま、サボテン2号サンも捜してくれまス……？
サボテン2号サンは、ラノシアではぐれマシタ。とってもきれい好きな方だったノデ、
私の腐臭が針に付いて、不快だったのかもしれないデス……。

サボテン2号 ： ……！！

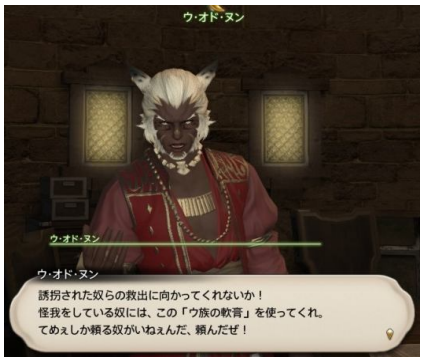
ハブ ： ウウ……サボテン2号サンとも会えマシタ！　妄想じゃナイ、生身のお友達……幸せデス！！
ここまで来たラ、サボテン3号サンにも会いたいデス！
内向きな性格のサボテン3号サンは、狭い所が好きデシタ。お気に入りの壺に入ったまま、アマルジャ族に盗まれテ……。
この爆薬で、3号サンを助けてあげてほしいのデス！

サボテン3号 ： ……！！！

ハブ ： ああ、アナタデスカ……。サボテンダーさんたち、故郷に帰っちゃいマシタ。
南ザナラーンの風にあたっテ、家族を思い出したそうデス。
……家族、いいデスネ……私はまた、ひとりボッチ。でも、ヒトトキの再会が、私の冷たい胸を暖めてくれマシタ。
生きていれば良いこともありますネ、アナタのおかげデス！

囚われたウ族

ウ・オド・ヌン ： ……砂漠にドレイクを狩りに行っていた連中が、アマルジャ族に襲われ、数人が誘拐されちまったらしい。
しかも、かなりの傷を負わされてたって話だ……。
俺は、ここで一族を統率しなくちゃならん。下のモンたちも動揺しちまって、冷静な状態じゃねぇからな。
……そういえば、てめぇは、アマルジャ族との戦いにも長けていたな？　今、奴らと対等に戦える連中は出払っているんだ。
誘拐された奴らの救出に向かってくれないか！　怪我をしている奴には、この「ウ族の軟膏」を使ってくれ。
てめぇしか頼る奴がいねぇんだ、頼んだぜ！



息が上がった狩人 ： 足が……痛いっ！　誰か、助けて……！
傷が……！　君、ありがとう！　これで逃げだせる！！

手傷を負った狩人 ： アマルジャ族に食われるくらいなら……　死んだほうがマシだ！！　クソ、こんな怪我くらいっ！
……助かった！！　この礼は、いつか必ず果たすぞ！

血に濡れた狩人 ： 誰だ貴様！！　くそっ、怪我さえなければ……！
族長の使いだったか……！　すまない、助かった！！

ウ・オド・ヌン ： 帰ってきたか！　囚われていた者たちなら、先ほど皆帰ってきた。てめぇのおかげだ、一族を代表して心から礼を言おう！

自由の意志

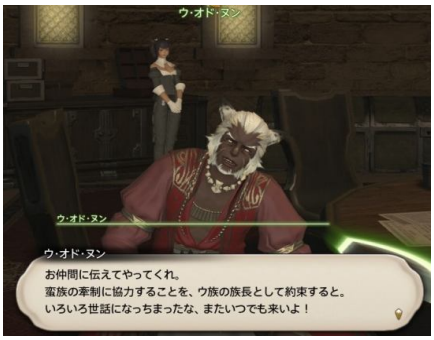
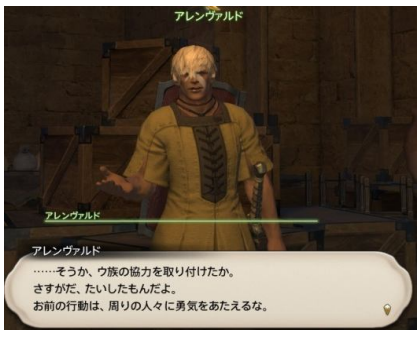
ウ・オド・ヌン ： 下のモンが、てめぇに礼を言いたいらしいぜ？　皆、感謝してるんだ。面倒だとは思うが、皆の話を聞いてやってくれよ。

闘志に燃える狩人 ： 冷静な行動、見事だったよ。アナタがいうことは信用できそうだ。アタシらウ族の民、アナタたちに協力をしよう。

目つきの鋭い狩人 ： 暁の血盟……とかいうのはよくわかんないけど、あんたに協力する理由はできた。
一緒に、蛮族に対抗しようぜ……っと。

涼し気な目元の狩人 ： ウ族の者を助けてくれて、ありがと。ウチラ、ウ族は、受けた恩義は忘れないわ。蛮族の牽制とやらに協力するよ！

笑顔のさわやかな狩人 ： 今回のアマルジャ族の蛮行……　私たちだけじゃ、力不足なこともあるんだねー。
みんなで協力して、がんばろっか？

ウ・オド・ヌン ： ウ族のモンたちの答えは固まったようだな。俺自身も今回の件で、アマルジャ族への対抗手段を、増やすべきだと実感したぜ。
……自由を守るためにゃ、戦わなきゃならねぇときもあるってことだな。
お仲間に伝えてやってくれ。蛮族の牽制に協力することを、ウ族の族長として約束すると。
いろいろ世話になっちまったな、またいつでも来いよ！

アレンヴァルド ： ……そうか、ウ族の協力を取り付けたか。さすがだ、たいしたもんだよ。お前の行動は、周りの人々に勇気をあたえるな。
俺も友のため、「暁」のため……　エオルゼアの民のために立ち上がろう。ウ族の民とともに、蛮族を抑えこんでみせる……。